



★本誌は“企業は人なり”の考えの元に会社の業績向上にお役立ていただきたいと願い発行しています。

「働き方改革時代に必要な経営者マインド改革」

【図1】アドラー心理学と経営

アドラー心理学が経営に役立つ理由

- 人間に無限の可能性があることを出発点にしている
- 未来に向け何ができるかを模索するため未来志向である
- 人間の可能性を信じることで経営者自身が楽になる

●外部環境変化により影響もあるが、政情が不安定な国や地域でない限り、経営に関する多くの問題は、自分自身から発せられることがほとんどである。視点を変えることで開けてくることが必ずある。

【図2】アドラー心理学4つの視点

尊敬	人間の尊厳に違いがないことを受け入れ、礼節をもって接する態度
信頼	常に相手の行動の背景にある善意を見つけようとし、根拠を求めずに信じること
共感	相手の目を見て、相手の耳で聞き、相手の心で感じる
協力	お互いの間に「尊敬、信頼、共感」をベースとしたうえで成立する

【図3】生産性の向上と人間性の復活

- ・バブル崩壊後、企業が成果主義の導入を始めたことにより生産性にシフトチェンジしてしまった
- ・生産性は短期間で成果を求めるが、人間性は長期的視野で育てなければならない
- ・両輪の歯車である人間性を高めることが生産性を高める
- ・異質な個性を取り入れることが会社力を高める。
- ・真のダイバシティ(多様性)とは、異質な個性から新たな感動や変革を生むこと

●経営者の心のあり方を変えるアドラー心理学

猶予されていた「働き方改革」最後の法令として、建設業、運輸自動車業、医師の時間外労働の規制が始まりました。

働き方改革は単に労働時間を制限しているとの批判がありますが、両輪のもう一つの推進力である「生産性向上」が伴っていないことが誤解を生んでいるように思います。それではどのような取り組みをすれば、生産性向上を実現することができるのでしょうか。それには、まず経営者マインドの改革が不可欠であると私は思います。

経営者マインドの改革には、「アドラー心理学」がとても参考になりますので、ご紹介します。

●アドラー心理学の未来志向は経営とフィットする

アドラー心理学は同じ心理学者のフロイトと比較されることが多く、フロイトが人間の行動は「原因論」にあるとすれば、アドラーは「目的論」にあるという考えに立っています。

アドラーの提唱する「目的論」から始めることは、未来思考で経営を考えることができ、また仕事の出来を原因に求めず、未来に向けて何ができるかを考えることで、経営者と社員が同じ方向(目的・目標)を見据えることができます。

ただし、アドラー心理学の考え方を取り入れることは、自己変革を伴うため、ある程度の覚悟は必要です。

●「勇気づけ」は経営者自身を救う

アドラー心理学の最大の特徴は「勇気づけ」にあります。「勇気づけ」の詳しい解説は省略しますが、「内なる力を信じる」ことです。その人がもつ「内なる力=勇気づけ」は、人を活かす経営につながり、それは経営者自身を助けることにつながります。自分だけしんどい思いをして仕事をしていると感じていたら、まずは社員や周囲は何を思い仕事をしているのか、考えてみられるとよいと思います。

それは自己変革の始まりです。

参考:「経営者を育てるアドラーの教え」(致知出版社 岩井俊憲著)

●定額減税の勉強会を開催

所内勉強会の様子

いよいよ6月1日より定額減税が始まります。それに合わせて当事務所では、お客様へのきめ細かなサポートを実現するため、まずはスタッフを対象に所内勉強会を開催しました。

定額減税は対象者の特定が不可欠であること、また、月々の減税額の管理が必要です。

なお、当事務所で「楽しい給与計算」をご利用の事業所さまは、定額減税に対応した仕様に変更されますので、ぜひご利用ください。(妹尾)



事務所日誌

●4月の事務所の活動

- 4日 クライアント事業所の安全衛生委員会へ出席
- 11日 井原商工会議所 定例労務相談員
- 18日 オンライン早朝読書会「いばら朝喝同好会」に参加
- 19・20・21日 生成AIと人事評価制度構築研修に参加
- 26日 所内定額減税勉強会を開催
- 30日 オンライン読書会「ゆうかつ」に参加



■編集好奇

▼4月から一人暮らしを始めた次男が、よく電話をくれます。料理していたら火災報知器がなる、実は洗濯機の排水溝がない、オカルトサークル、自転車でこけるなど色んなハプニングがあり話のネタがつかません^^ 頑張れ！次男！（SY）